

三宅島の現状（その71）

平成16年1月29日
三宅村災害対策本部

【気象及び火山活動状況】 1月11日～1月25日

今期間の気象状況は、周期的に低気圧や前線が通過し、17日には島内各観測点で30ミリ以上の降水量を観測し、特に阿古では74.0ミリの雨を観測しました。低気圧や前線の通過後は、冬型の気圧配置となり晴れた日もありましたが、22日からは強い寒気が南下したため雲が多く、一時的に雪の降る日もありました。

火山の活動状況は、この期間、三宅島での有感地震はありませんでした。噴煙の状況は、最大で20日、21日に白色の噴煙が火口上500mまで上がっているのが観測されました。

火山ガス(SO₂)の放出量調査は20日に東京消防庁の協力により実施し、約3,000～約5,000トン／日を観測しました。

島内のガス濃度(SO₂)の、今期間最大値は15日と20日に三宅島空港で3.3ppmを観測しました（東京都環境局観測）。

【しおの雨】

22日から強い寒気の南下で、三宅島でも大変に寒く風の強い日が続きました。特に、22日の夜から23日の朝にかけて、気温は2.6度と今年一番の寒さとなり、風速においては最大34.6メートル／秒と過去60年間でベスト10の強風が吹きました。このような強風とそれによる波浪で阿古地区では“しおの雨”が降り、自動車で通るときにフロントガラスを打ちつけます。

ところで、青森県の金木町では、“下から降る雪”という奥津軽の冬の厳しい気候を逆手に取り、「雪国地吹雪体験」を町おこしのイベントとして大成功をおさめています。遠くはハワイからの観光客もいたそうです。

自動車を運転しながら、三宅島の“しおの雨”も、帰島後の村おこしの目玉にならないものかと考えてしまいました。

【滞在型および日帰り帰宅の実績】

(1) 日帰り帰宅事業の実績

| | | | |
|-------|------|-----|-----|
| 1月17日 | 阿古地区 | 参加者 | 16名 |
| 1月24日 | 坪田地区 | 参加者 | 20名 |

(2) 滞在型帰宅事業の実績

| | | | |
|------------|------|-----------|-----|
| 1月17日から18日 | 阿古地区 | 参加者 | 28名 |
| 1月20日から22日 | 阿古地区 | 船便欠航のため中止 | |
| 1月24日から25日 | 坪田地区 | 参加者 | 54名 |
| 1月27日から29日 | 坪田地区 | 参加者 | 55名 |

A

現時点で長期的影響の目安に達している観測点

現時点で長期的影響の目安に概ね達しているが、今後の推移を注意深く見守る必要がある観測点

B

現時点で長期的影響の目安に達していない観測点

現時点で長期的影響の目安に達している観測点であるが、高感受性者が注意を要する月平均時間(分)

C

| 伊ケ谷老人福祉館 | | |
|----------|---------------------------|-------|
| | 年平均値(ppm) | 0.05 |
| 長期 | 1時間値0.1ppm以上の割合(%) | 7.4 |
| 短期 | レベル1(0.2ppm超) 月平均時間(分) | 2,360 |
| | レベル2(0.6ppm超) 月平均時間(分) | 1,325 |
| | レベル3(2ppm超) 月平均時間(分) | 180 |
| | レベル4(5ppm超) 月平均時間(分) | 1 |

| 三宅支庁 | | |
|------|---------------------------|------|
| | 年平均値(ppm) | 0.01 |
| 長期 | 1時間値0.1ppm以上の割合(%) | 2.4 |
| 短期 | レベル1(0.2ppm超) 月平均時間(分) | 700 |
| | レベル2(0.6ppm超) 月平均時間(分) | 318 |
| | レベル3(2ppm超) 月平均時間(分) | 23 |
| | レベル4(5ppm超) 月平均時間(分) | 0 |

| 逢の浜温泉 | | |
|-------|---------------------------|-------|
| | 年平均値(ppm) | 0.16 |
| 長期 | 1時間値0.1ppm以上の割合(%) | 19.5 |
| 短期 | レベル1(0.2ppm超) 月平均時間(分) | 5,898 |
| | レベル2(0.6ppm超) 月平均時間(分) | 2,910 |
| | レベル3(2ppm超) 月平均時間(分) | 995 |
| | レベル4(5ppm超) 月平均時間(分) | 81 |

| 三池消防器具置場 | | |
|----------|---------------------------|-------|
| | 年平均値(ppm) | 0.26 |
| 長期 | 1時間値0.1ppm以上の割合(%) | 25.5 |
| 短期 | レベル1(0.2ppm超) 月平均時間(分) | 8,725 |
| | レベル2(0.6ppm超) 月平均時間(分) | 5,457 |
| | レベル3(2ppm超) 月平均時間(分) | 1,451 |
| | レベル4(5ppm超) 月平均時間(分) | 178 |

| 阿古港船客待合所 | | |
|----------|---------------------------|-------|
| | 年平均値(ppm) | 0.06 |
| 長期 | 1時間値0.1ppm以上の割合(%) | 8.8 |
| 短期 | レベル1(0.2ppm超) 月平均時間(分) | 2,619 |
| | レベル2(0.6ppm超) 月平均時間(分) | 1,355 |
| | レベル3(2ppm超) 月平均時間(分) | 200 |
| | レベル4(5ppm超) 月平均時間(分) | 2 |

| 薄木生コン工場 | | |
|---------|---------------------------|-------|
| | 年平均値(ppm) | 0.18 |
| 長期 | 1時間値0.1ppm以上の割合(%) | 19.8 |
| 短期 | レベル1(0.2ppm超) 月平均時間(分) | 5,625 |
| | レベル2(0.6ppm超) 月平均時間(分) | 3,606 |
| | レベル3(2ppm超) 月平均時間(分) | 971 |
| | レベル4(5ppm超) 月平均時間(分) | 20 |

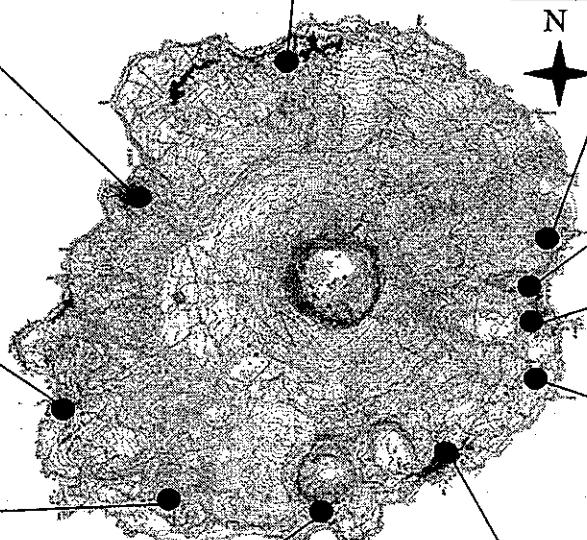
| アカコッコ館 | | |
|--------|---------------------------|-------|
| | 年平均値(ppm) | 0.04 |
| 長期 | 1時間値0.1ppm以上の割合(%) | 6.3 |
| 短期 | レベル1(0.2ppm超) 月平均時間(分) | 1,704 |
| | レベル2(0.6ppm超) 月平均時間(分) | 719 |
| | レベル3(2ppm超) 月平均時間(分) | 152 |
| | レベル4(5ppm超) 月平均時間(分) | 14 |

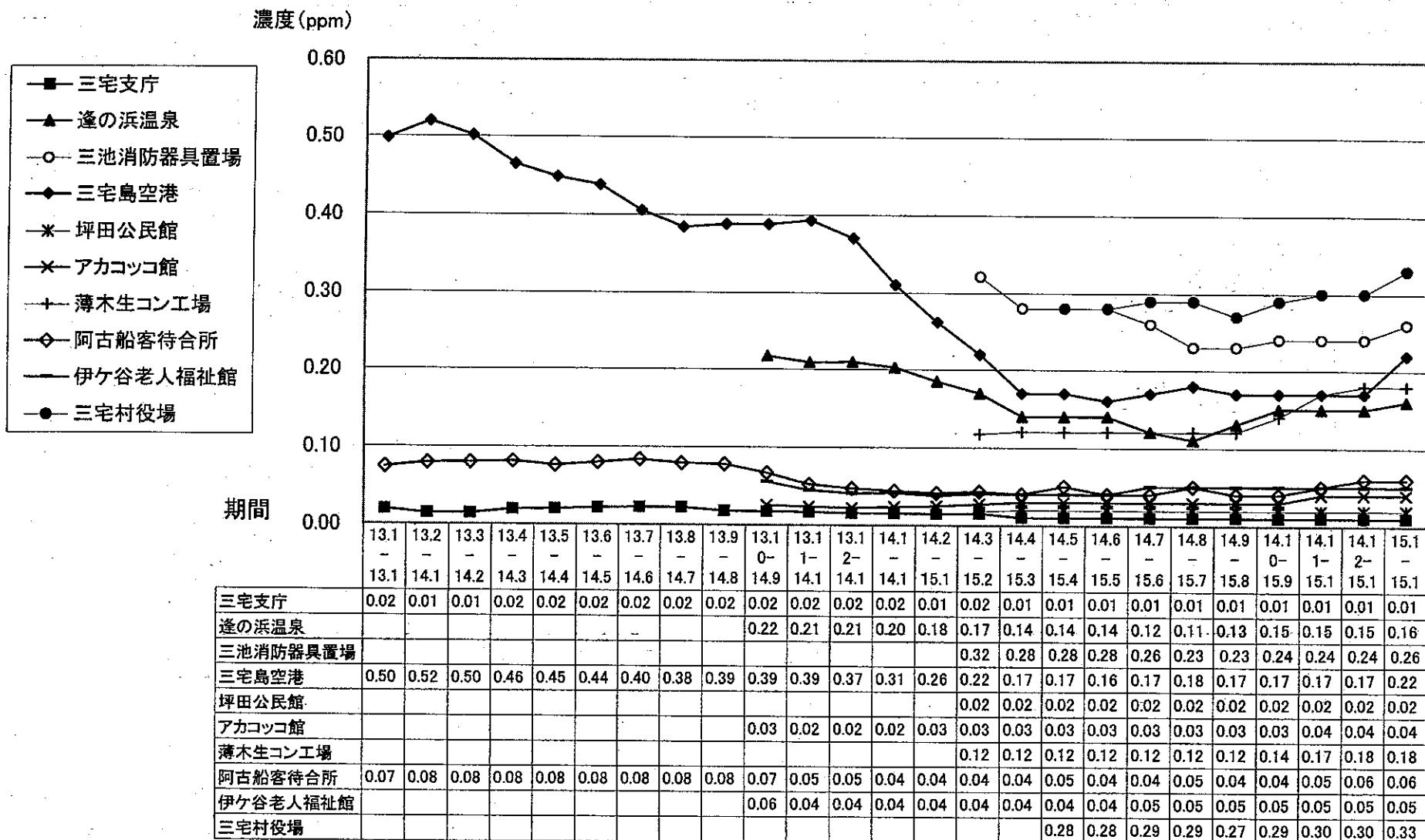
| 坪田公民館 | | |
|-------|---------------------------|------|
| | 年平均値(ppm) | 0.02 |
| 長期 | 1時間値0.1ppm以上の割合(%) | 3.3 |
| 短期 | レベル1(0.2ppm超) 月平均時間(分) | 822 |
| | レベル2(0.6ppm超) 月平均時間(分) | 402 |
| | レベル3(2ppm超) 月平均時間(分) | 80 |
| | レベル4(5ppm超) 月平均時間(分) | 4 |

| 三宅島空港 | | |
|-------|---------------------------|-------|
| | 年平均値(ppm) | 0.22 |
| 長期 | 1時間値0.1ppm以上の割合(%) | 16.3 |
| 短期 | レベル1(0.2ppm超) 月平均時間(分) | 5,812 |
| | レベル2(0.6ppm超) 月平均時間(分) | 4,453 |
| | レベル3(2ppm超) 月平均時間(分) | 1,597 |
| | レベル4(5ppm超) 月平均時間(分) | 108 |

二酸化硫黄濃度の目安に照らした各観測点の状況

*データは平成15年1月1日から
平成15年12月31日まで。





平成16年1月27日
気 象 庁

三宅島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

三宅島の火山活動は、全体としてゆっくりと低下してきていますが、2002（平成14）年から2003（平成15）年にかけて地下深部からのマグマ供給の一時的な増加に対応すると思われる地殻変動が見られるなど短期的には揺らぎがあります。最近1年あまり火山ガス放出量はほぼ横ばいとなっており、火山ガスの放出は当分の間継続する可能性もあります。

三宅島の山頂火口からの噴煙高度及び火山ガスの放出量は長期的には低下してきています。そのうち、二酸化硫黄についても、放出量はゆっくりと減少してきましたが、最近1年あまりは、1日あたり3千～1万トン程度と概ね横ばい傾向となっています。火山ガスの組成に顕著な変化は依然認められず、マグマ中のガス成分濃度や脱ガスの条件などに大きな変化ないと考えられます。放熱率も最近1年半程度顕著な変動は認められず、ほぼ同じ水準を維持しています。

火山灰の放出を伴う噴火は2002（平成14）年11月24日の小噴火以来観測されていません。

全磁力観測からは、山頂火口直下の温度は2002（平成14）年夏以降長期的に低下していることが推定されます。火口内の表面温度も、長期的に低下しています。

連続的に発生している火山性微動の振幅は長期的には小さくなっています。山頂直下の火山性地震の活動は継続しています。

活動の開始以来観測してきた三宅島の収縮を示す地殻変動は、2002（平成14）年8月頃から停止していましたが、2003（平成15）年6月頃から再び収縮傾向となっています。2002（平成14）年8月頃から2003（平成15）年6月頃までの収縮の停止は、地下深部からのマグマの供給の一時的な増加に伴うものと推定されます。

以上のように、三宅島の火山活動は、全体としてゆっくりと低下してきていますが、三宅島の収縮傾向に一時的な変動が見られるなど短期的には揺らぎがあります。また、最近1年あまり火山ガス放出量はほぼ横ばいとなっております。

三宅島では、今後も局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることもありますので、風下に当たる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。

火山ガスと健康影響に関するQ&A

Q 火山ガスと温泉のガスは同じですか？

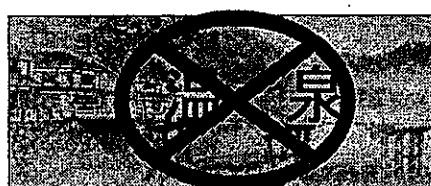
A 温泉のガスとは別の物質です。

正確に言えば、火山ガスの一部には温泉のガスと同じ成分が含まれており、温泉のガスの一部には火山ガスと同じ成分が含まれていますが、三宅島に関しては別物と考えたほうが誤解が少ないと思います。

三宅島の火口から噴出しているガスの主成分は、二酸化硫黄・水蒸気・硫酸ミスト・硫化水素・二酸化炭素・浮遊粒子状物質です。

これらの成分の内、危険なのは二酸化硫黄です。その他の成分は濃度が低いので、人体への影響は極めて低いと考えられます。

温泉のガスの主成分は二酸化炭素・硫化水素等です。



シロアリ被害調査のお知らせ

平成 16 年 1 月 30 日

日頃より、村の事業推進にご理解ご協力をいただきお礼申し上げます。

さて、三宅村では、皆様からのシロアリ被害報告に基づき、平成 14 年度より被害の調査を行ってきました。その結果、約 200 軒に被害が確認され駆除を実施しましたが、長引く島外避難と倒木や枯れ木などの環境変化によって、新たな被害の発生もあるものと思われます。

そのため平成 16 年度も、~~日帰り及び滞在島主等を対象に調査駆除の工事を予定していますので、シロアリ被害を確認された場合は、下記、役場担当課まで裏面の「シロアリ被害報告書」にてご報告（FAX 可）願います。~~
~~れい家庭~~を対象に調査駆除の工事を予定していますので、シロアリ被害を確認された場合は、下記、役場担当課まで裏面の「シロアリ被害報告書」にてご報告（FAX 可）願います。

尚、調査事業は 5 月から 6 月頃を予定していますので、遅くとも 4 月中に報告頂けるようお願い致します。

報告及び問い合わせ先

〒163-8001

新宿区西新宿 2-8-1 東京都庁第 1 本庁舎 29 階中央

三宅村役場施設整備担当課 小日山、前田

電 話 03-5320-7844

F A X 03-5388-1602

シロアリ被害報告書

三宅村役場施設整備担当課

電話 03-5320-7844

FAX 03-5388-1602

| | | | |
|-----|---|------|---|
| 氏名 | | 電話番号 | |
| 現住所 | 〒 | 島住所 | 〒 |

1. 被害箇所（シロアリ被害と思われる場所に○をしてください。）及び状況を記入してください。

浴室、トイレ、洗面所、台所（水廻り箇所）、玄関、勝手口
床、壁、天井、廊下、柱、畳裏、押入れの床壁
垣根、庭木（切り株）、マキ、材木
その他

・状況

2. 下記の中で、思い当たる事例に○をしてください。

- a. 建物内外にある木材やダンボール箱を動かしたときに数ミリ程度の白い虫が大量にいるか、泥状のものが貼り付いていた。
- b. 柱や梁をたたくと、空洞音がする。
- c. 柱や梁が腐ったようになっているか、ボロボロの状態になっている。
- d. 床が下がったり、きしんだり畳が腐ったようになっている箇所がある。
- e. 天井や壁上部に泥状の塊が見える。
- f. 敷地内に切り株が有り、その切り株が腐ったようになっている。

3. 上記の他で、気になっていることがあれば、記入してください。